

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	それ以外		・近隣の百貨店の閉鎖があったため、当店の状況にはイレギュラーな面があるが、全店ベースで見ると、厳しいながらも回復傾向にある。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き		・12月以降、来客数が増加傾向にあり、今月も同曜日比較ではプラスになっている。
		スーパー（店長）	販売量の動き		・今月は営業日数が3日少ないが、販売量は先月と比較しても多く、前年との比較でも5%の伸びとなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き		・競争環境が変化してきている。地元食品スーパーの廃業や百貨店の撤退があり、当店の来客数は増加している。
		家電量販店（店員）	販売量の動き		・エコポイント制度の効果で薄型テレビが販売量、売上ともに伸びている。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き		・宿泊客が多かったため、朝食利用の売上は前年比105.7%となった。ただし、それ以外の売上は前年比88.4%と低調なままである。
		観光型ホテル（経営者）	お客様の様子		・国内旅行は閑散期ということもあり、相変わらず低調である。しかし、外国人観光客は中国人、特に富裕層が増加してきていることから、客単価が上昇しており、売店、レストランでの消費も増えている。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き		・客単価が低くとどまっているため、はっきり上向きとも言い難い面もあるが、来客数が増えつつある。
		タクシー運転手	販売量の動き		・雪の多かった前月と比べると、売上は約2%減っているが、3か月前との比較では、売上は約5%増えている。前年と比較しても売上は約2%伸びている。これらの傾向から、景気は若干ではあるが回復傾向にある。
		観光名所（役員）	来客数の動き		・国内客の観光入込は依然として低迷を続けているが、海外客の観光入込は、旧正月の効果から、台湾や韓国、香港などの東アジアを中心に増加しており、観光入込の全体数を押し上げている。
	美容室（経営者）	来客数の動き		・売上が前年実績を上回っており、以前よりは客の動きが良くなってきている。	
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き		・引き続き商店街への来街者数の落ち込んでいる。
		商店街（代表者）	来客数の動き		・例年になく、厳しい寒さが続いたことから、高齢者の外出機会が減っている。商店街への来街頻度も低下しており、衣料品店や飲食店等の売上は前年比90~100%で推移している。
		商店街（代表者）	お客様の様子		・先行き不安が客の慎重な買い方につながっている。季節商材ですら必要な物しか購入しなくなっている。特売に対する反応も鈍くなってきている。
		商店街（代表者）	お客様の様子		・前月と比べて、客の動きには変化がみられない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き		・政権与党が景気対策を打ち出せないでいることで、消費者が不安になっている。雪のライトアップイベントの期間中の人出は、半分近くが中国人であった。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き		・例年2月後半からは、新年会需要が一段落するため、売上は厳しいものになる。特に、前年は落ち込みが大きかったことから、今年は前年以上の売上を見込んでいたが、前年並みの売上にとどまっている。来客数もやや減っているが、1件当たりの販売量が非常に落ち込んでいることが原因とみられる。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き		・来客数が大幅に減少しており、買上単価も大幅に低下している。不要な物は買わない、買う時はより安くといった消費者の動きがまだまだ続いている。余談ではあるが、冬季オリンピックの女子フィギュアスケートがあった24日と26日は売上、来客数とも大きく落ち込んだ。

百貨店（売場主任）	来客数の動き	・食品催事の開催時期がずれたことで、売上は前年を上回っているものの、催事の影響を除いた調整後の売上は前年比94%前後と直近のトレンドと変わらない。買上客数も前年比99%前後と傾向は変わらない。
百貨店（役員）	お客様の様子	・2月は元々売上の少ない月であり、企画が当たるかどうかで売上也大きく変化するため、店頭の数値だけで景気の判断にはつなげにくい面がある。
スーパー（店長）	単価の動き	・客単価の低下に歯止めがかからない状況である。来客数は増えているが、割引セールに集中する傾向が以前よりも強まっている。
スーパー（役員）	単価の動き	・客単価が前年比101.5%となっており、過去11か月の平均値101.7%とほぼ同率で推移している。また商品単価が前年比95.5%、客1人の平均買上点数が前年比106.2%となっており、単価、点数ともほぼ同率で推移しており、状況に大きな変化はみられない。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価の低下が進んでいるほか、買上点数の伸びも鈍化している。年明けからこの傾向が強まっている。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・低単価商品の販売量が増加しているが、客単価低下の影響が大きく、売上は相変わらず低迷している。
家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・冬季オリンピックの効果もあり、薄型テレビは引き続き好調であるが、それ以外の大型商材の売行きは依然として厳しく、全体ではほぼ横ばいの状態である。
乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・メディアでは景気が上向きと伝えられているが、全く実感がなく、客の様子からもうかがえない。依然として、客の財布のひもは固く、不具合などで車を乗換える客が少ない。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・利益、来客数とも変わらずに推移している。
その他専門店 [医薬品]（経営者）	お客様の様子	・例年、風邪等の季節疾患でまずまずの売上が見込まれるが、今年は病院、薬局とも、閑古鳥が鳴いている。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・石油製品の価格が安定しているため、状況は大きく変わらない。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・2月に入り、海外からのチャーター便が相当みられるが、来客数にはあまり結び付いていない。前月に続き、今月も地元客向けのイベントを行っているが、当初の勢いはなく、売上は前年比90%と厳しい数字となっている。客単価はやや上昇している。
スナック（経営者）	来客数の動き	・前年も前々年も来客数の動きをみると、2月になってもそれほどの落ち込みがみられなかった。今年も同様の傾向にあることから、全体としては変わらない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・海外旅行については、売上が前年を150%上回っており、3月のハワイのチャーター便の残り席数はわずかとなっている。国内旅行については、関東圏の大型テーマパークや九州、沖縄の売上が増加している。
タクシー運転手	お客様の様子	・客の節約志向が一段と強まっている。今月は天気が非常に良かったことから、タクシーの利用客が減少しており、電話の注文も減少している。
タクシー運転手	来客数の動き	・相変わらず電話の注文数が減少している。来客数も減少している。
観光名所（職員）	来客数の動き	・中国を始めとした東南アジアからの海外客がわずかではあるが増加している。また国内客も前年並みに回復している。
パチンコ店（役員）	それ以外	・マスコミの報道に踊らされているように感じる部分もあるが、どのような店においても、割引や値引きを前面に押し出すことが当たり前になってきている。安ければサービスは二の次といった店も増えてきている。
その他レジャー施設（職員）	販売量の動き	・前年よりも活発な販促活動をしているが、比較的高額な団体向け商品については、不景気で人数が集まらず、割り勘の頭数が少ないとの理由で断られるケースが多かった。例年であれば、冬期間に複数回利用する団体も、今年は1回限りの利用が多い。

		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・年間で最も売上が減少している。観光閑散期であることも含めて、ほとんど変化はみられない。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・客のマインドがとても冷え込んでいる。
やや悪くなっている		商店街（代表者）	お客様の様子	・例年と比べて、冬物のセールに対する客の食いつきが良くない。春物に関しても、3月の入学・卒業対応の季節商材に対する客の購買がみられない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の買い控えがみられる。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・2～3か月の短期的な動きをみると、昨年12月をピークに来街者数が減少傾向にある。特に週末の来街者数が前年と比べて少なくなっている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・物産催事の売上が前年を上回っているものの、衣料品の冬物処分品については客単価が前年よりも低下している。
		スーパー（企画担当）	お客様の様子	・既存店の来客数は前年を下回っており、単価も前年を数パーセント下回っている。依然として単価の低い商品ばかりが売れている。
		スーパー（役員）	お客様の様子	・全体的に売上は前年並みとなっているが、広告の入る週末に客の買物が集中する傾向が一層強くなっている。価格の安い広告商品を中心に、週末にまとめて買物をする傾向が強くなっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・年明けから売上が伸び悩んでおり、前年をやや下回っている。ここにきて年末需要の反動が顕著に表れている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・雪まつり前後は観光客の入込もあり、前年並みの売上となったが、それ以外の期間は、平日、週末とも地元客を中心に売上を落とした。活気のあるレストランもランチでの客数確保が主で夜の客は少ないようだ。市街地では雪まつり後も、アジア圏の観光客が多いのだが、地元客向けの飲食店には恩恵がない。
		観光型ホテル（経営者）	単価の動き	・本州方面からのツアー客、道内地元客ともに、宿泊単価が下落傾向にある。
		観光型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊等の料金は下げ止まっていないが、旧正月を北海道観光で過ごす海外客が伸びたことで、前年よりも来客数が増えている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・2月の販売額をみると、国内旅行が前年比84%、海外旅行が前年比78%と前年を下回る状況が続いている。先行受注額も3月の国内旅行が前年比80%、海外旅行が前年比79%となっており、回復の兆しが見えない。
悪くなっている		美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少傾向が止まらない。今の時期は年間でも来客数の少ない時期ではあるが、前月比、前年比とも10%ほど来客数が減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・2月は雪まつりなどのイベントがあるが、最近では外国人観光客が多く、外国人はタクシーを利用しないので、イベント中もタクシーの利用は増えない。今月は前年比で10%ほど売上が落ちている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・通信機器やサービスの導入に際し、競合他社との価格競争が激化しすぎて、赤字での競争となっている。それにもかかわらず、客が部分発注にとどめたり、翌年度に持ち越す案件が数多く出ている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・2月の住宅販売戸数は例年増加する傾向にあるが、今年は販売戸数の伸びが小さく、消費者の住宅に対する購買意欲の低下が感じられる。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	家具製造業（経営者） 通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き 受注量や販売量の動き	・不況のなかで保留になっていた請負物件が動き出している。高額品の販売も伸びてきている。 ・3か月前との比較であれば、受注量や販売量がやや持ち直している傾向がみられる。ただし、例年との比較ではまだ低調気味であることは否めない。

	その他サービス業 [建設機械レンタル] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・今月の受注額の前年比でのプラス幅が、3か月前よりも拡大している。	
変わらない	食料品製造業 (団体役員)	それ以外	・2月は雪まつりを始め、冬季イベントの最も多い時期であり、海外観光客を含め、来道者数が増加している。補正予算等により、例年と比べて公共事業は増えたが、消費動向は節約志向により、保存性のある食料品や低価格の日用品等が売れている。	
	金属製品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・依然として受注量及び販売量が伸び悩んでいる。見積量も増えてこない。	
	建設業 (従業員)	競争相手の様子	・3月決算の大手建設会社の今年度売上は直近の半分程度といわれ、改選期を迎える支店長人事も本社のエリートコース経験型から支店生え抜き型に転換されている。北海道経済の今後を見通した象徴的な現象のように受け止められる。	
	輸送業 (営業担当)	取引先の様子	・製紙業、飼料業、飲料製造業関連で大きな変化はみられない。ただし、前年の農産物不作により貨物輸送量そのものは減少している。	
	金融業 (企画担当)	それ以外	・個人消費関連のホテル・旅館業、小売業は販売価格の下落が目立っている。設備投資は低調に推移している。住宅着工は低水準ではあるが、下げ止まってきている。建設業は公共工事の発注増で持ち直しており、一部には人手不足の企業もみられる。景気対策効果から乗用車と薄型テレビの販売は堅調に推移している。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引、建物建築はいずれも低迷している。土地の価格が安定しない状況では期待できない。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産の動きは依然として鈍いが、中古マンションで値ごろ感のある物件は徐々にではあるが、動きが始めている。	
	その他非製造業 [鋼材卸売] (役員)	受注量や販売量の動き	・客先での案件が少ないため、受注量、販売量とも低調である。	
やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業 (従業員)	受注価格や販売価格の動き	・全体の受注額が減少している。	
悪くなっている	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・受注販売の悪い時期だが、前年よりも15%ほど受注量が落ち込んでいる。	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	新聞社 [求人広告] (担当者)	求人数の動き	・わずかではあるが、募集広告の売上が前年を上回った。前年を上回るのは相当久しぶりであった。派遣、流通、飲食の減少傾向は変わらないが、医療系、運輸・運送、土建、不動産関連の募集件数が増加しており、落ち込み分をカバーした。
	変わらない	求人情報誌製作会社 (編集者)	雇用形態の様子	・毎年2月に正社員の求人開拓を行っているが、今年の求人は前年比で7割となった。ただ、パート・アルバイト等は飲食関連を中心に微増傾向にある。
		求人情報誌製作会社 (編集者)	求人数の動き	・前年に比べて、求人件数が7%ほど増加している。なかでも大型複合商業施設のオープンや既存の大型施設の店舗入替などによるファッション関連の求人増加や、引越等の貨物運送関連の求人増加が特徴的である。またコールセンターや業務請負の決定率の低下によるリピート求人もみられる。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・1月の有効求人倍率は0.35倍で前年から0.01ポイント上昇し、26か月ぶりに前年を上回った。しかし、新規求人数は前年を4.8%下回っており、離職者が減ったものの、新しい雇用の動きはみられなかった。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から2.0%減少し、2か月連続で前年を下回った。月間有効求人数は前年から3.8%減少し、39か月連続で前年を下回った。
		職業安定所 (職員)	求人数の動き	・管内の1月の新規求人数が前年を2.1%下回った。有効求人倍率も0.33倍と前月を0.01ポイント上回ったものの、31か月連続で前年を下回った。
職業安定所 (職員)	求人数の動き	・1月の新規求人数は前年を8.7%下回った。新規求職者数は前年を22.1%下回った。月間有効求人倍率は0.38倍となり、前年の0.36倍を0.02ポイント上回った。		

やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の業績回復がみられず、派遣のオーダーが減少傾向にある。業績悪化から雇用調整の動きが活発で、再就職支援の相談が増加している。官庁より受託した雇用対策事業のなかで、求人企業と求職者が一堂に会する合同企業面接会を運営しているが、企業からの求人が激減している。
	学校 [大学] (就職担当)	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年卒業者を対象とする合同セミナーが、この2月に開始されたが、主催するすべてのセミナーで、前年の2～3割減の出展数となった。とりわけ、首都圏に本社のある企業では、数か月前には採用意欲が不透明であったことから、北海道での個別セミナーを実施しないことをここ数か月で決定した向きがある。また、1度求人票を開示しながらも、採用を見合わせる事例も少なくない。
悪くなっている	-	-	-